

◆地域活動

ヒトエグサ晩期採苗試験

(ヒトエグサ養殖指導)

水産海洋技術センター 大城 信弘

1. 背景・目的

台風の影響で、前半期の採苗に失敗する例が多々有り、採苗可能な時期の問い合わせが寄せられ、作年度から晩期の採苗・養殖試験を試みた。

2. 方法及び結果

階段状に水平に造成された具志川田場地先の護岸で、ヒトエグサの着生している場所に、網を一枚束ねて、約2週間設置し、その後名護市屋我の養殖現場に張り出した。

種取り網設置は昨年度は、10月20日設置11月6日張り出し。同様に、11月5日設置で11月20日張り出し。次いで11月20日設置で12月5日張り出し。12月5日設置で12月18日張り出し。12月17日設置で1月7日張り出しの5回行った。

此れ等は、当初は、10月21日に床張りで、屋我に設置した接合子付け網7枚の上に、順次重ねて設置した。

その後、1月5日に、接合子付け網は本張りに移され、種取り網5枚が残された。その時点では、下2枚はヒトエグサがかなりの密度で生育していた。

同網は、3月6日の時点では、下2枚は藻体が5cm以上に生育し、本張りに移され、後に収穫された。

残り3枚は4月7日の時点で、下の1枚の処所にヒトエグサの発生が観られたが、2cm程度と短く、網は回収された。

又、同様に、名護市仲尾地先の護岸でも、12月5日設置で12月10日に回収。12月10日設置で12月24日回収。12月24

日設置での3回の種取り網設置を行い、栽培漁業センターの陸上水槽でミストを掛けて收容した。

さらに、12月8日に、屋我に通常通りに5枚セットの網を張り出し、経過を観察した。

これらの内、栽培センターの陸上水槽で、ミストを掛けた網は、何れもアオノリが着生し、顕微鏡下では、ヒトエグサらしき藻体が観られるものの肉眼でヒトエグサと判る藻体は生じなかった。

12月8日に直接現場に張り出した5枚組網は、4月7日の観察の時点で、極疎らに着生が観られ、長いのは8cmに達していたが、全体的に泥に覆われており、網を撤去した。

今年度は、12月7日に2枚の種取りを開始し、12月23日に屋我に張り出した。次いで12月24日に2枚で種取りを開始し、1月8日に屋我に張り出した。今年度の網は、ヒトエグサの着生上限付近に張り出した。

同網は、3月21日の時点で、全体的に着生の様子は無く、極一部に1cm程度の芽生えは有るものの、網を回収した。

3. 考察

今回は、いつまで実用的な採苗が可能かを探る為の予備試験として行った。

試験地の屋我地先は泥汚れが強く、十分な網掃除は行われなかったが、10月20日設置11月6日張り出し、11月5日設置で11月20日張り出の2網は、収穫に至った。

12月5日設置で12月18日張り出しの

網は、着生が僅かで、藻体も小さかった。12月8日に現場に張り出した5枚組網も、疎らな着生はあったものの、実用に供せるものでは無かった。

此れ等からすると、種取りは、年や場所にも依ろうが、遅くても11月前半迄と判断される。

それ以降も、ある程度の種の着生は考えられるが、生育の遅れから、収穫には至らないものと予想される。

今回の、陸上水槽でのミスト噴霧に依るテストでは、元々種の着生が少なかったのか、アオノリが優先した為か、或いはヒトエグサの生育要素が整って無かった為か、肉眼的な発葉は観られなかった。

今後、ヒトエグサ養殖の安定の為には、発芽要因の解明や、コントロール技術の開発が必要とされる。



図1 網の発芽状況 (15年2月12日)



図2 上部3枚の状況 (4月7日)



図3 回収網の状況 (3月21日)